

【実施日】

令和5年4月25日（火）

【学力調査の対象学年・教科】

- 小学5年生（国語・算数・理科）
- 中学2年生（国語・社会・数学・理科・英語）

小学5年生

大分県学力定着状況調査

平均正答率	国語	算数	理科
市	68.4	62.4	63.6
目標値	67.3	64.8	65.2
県	71.5	68.1	67.7
全国	69.1	63.5	66.3

観点別 平均正答率		国語		算数		理科	
		知識	活用	知識	活用	知識	活用
正答率	市	71.7	61.0	65.8	56.0	66.5	55.7
	目標値	73.1	54.4	69.3	56.4	69.1	54.4
	県	75.4	62.7	71.4	61.8	71.1	58.6
	全国	73.4	59.4	67.1	56.7	70.1	56.0

中学2年生

大分県学力定着状況調査

平均正答率	国語	社会	数学	理科	英語
市	73.6	54.1	54.4	59.5	50.0
目標値	61.3	51.5	55.0	55.1	50.3
県	66.5	52.6	54.0	56.1	45.4
全国	63.0	50.8	51.8	54.5	44.6

観点別 平均正答率		国語		社会		数学		理科		英語	
		知識	活用	知識	活用	知識	活用	知識	活用	知識	活用
正答率	市	76.9	67.4	57.1	47.1	61.0	35.3	67.1	43.7	56.4	35.2
	目標値	66.5	51.7	53.8	46.1	59.8	41.3	60.0	45.0	54.8	40.0
	県	71.1	58.0	55.2	46.6	60.3	35.7	62.9	41.9	51.5	31.2
	全国	67.7	54.1	52.6	46.5	57.9	34.5	60.4	42.4	50.8	30.3

学力調査の概要

(1) 良好な項目

- ◇国語科を領域別に見ると、「書くこと」については全国平均を8.3%上回り、指定された条件で文章を書くことについて成果が見られる。また「活用」について全国平均を上回っている。
- ◇算数科では、「データ活用」領域において、2つのグラフを関連付けて考察をしたり、二次元表から数値を読み取ったりすることについて成果が見られる。
- ◇理科では、実験結果を基にした考察を行い、身近な事象と関連付けて考えることができています。

(2) 課題がある項目

- ◇国語科では、言語知識を問う基礎的な問題の定着に課題がある。連用修飾語の問題については、特に正答率が低い。
- ◇算数科では、面積や長さの見当をつけることに課題がある。また、目的に合うように数の大きさを見積り、処理する問題についても正答率が低い。
- ◇理科では、実験イラストを見て何を確かめるための実験なのか、また実験の目的について十分理解できていない児童が半数近くいる。

質問紙調査結果の概要

(1) 良好な項目

- ◇「話し合い活動の時、積極的に発言したり、質問したりする」「他の人と同じ意見でも自分なりに考えて発言している」の肯定的回答は、全国と比較すると10%以上上回っている。
- ◇「ノートの取り方について自分なりの工夫をしている」の項目では、全国平均を10%以上上回っている。

(2) 課題がある項目

- ◇「教科の学習はどれくらい好きですか」の項目について、算数・国語・社会について肯定的回答が60%以下になっている。また「教科の勉強はどのくらいわかっていますか」の項目についても全ての教科において減少している。
- ◇授業中に「めあてや課題が示されていた」「まとめやふりかえりを行った」の肯定的回答がやや下降傾向にある。
- ◇1か月に本を読む冊数については、20冊以上読む児童は県平均(16.9%)の半数の8.6%となり、26.5%の児童が月に2~3冊の読書量である。

具体的な取組

- ◇実験結果や表・グラフ、または友だちの考え等を基にして「他者の考えや資料から、どんなことが言えるか(理科では考察やまとめなど)自分の言葉で表現することができる力」を授業の中で意識し、考えたり書いたりする時間を十分設定する
- ◇「めあて・課題、まとめ・ふりかえり」を1時間の授業の中に位置づけ、この時間に何を学んだのか明確になる授業を行う。またそれがしっかり身に付いたか単元テスト等で見取り手立てを講じる。
- ◇児童の学習状況を単元ごとに見取り、学習内容をしっかり身に付けさせ、「できた」「わかった」を感じさせ「授業が好きになる」児童を育てていく。
- ◇小規模校においてはその利点を生かし、個別指導や学んだことをアウトプットする時間を確保した授業形態など知識・技能の基礎基本を定着させる授業を行う。

学力調査の概要

(1) 良好な項目

- ◇全ての教科について、全国または県の平均を上回っている。
- ◇国語科については、言語文化に関する事項（歴史的仮名遣いや故事成語等）については96.3%と目標値を大きく上回っている。
- ◇社会については、「歴史」において資料から考察する問題に目標値を上回る成果が見られる。
- ◇数学科については、「数と式」の領域において、基礎的な計算力や文章を文字式に表す問題に成果が見られる。
- ◇理科については、「生命」の領域において植物や動物の分類についての理解が定着し80～90%近い正答率となっている。
- ◇英語科については、「聞くこと」の領域において、聞いた内容を理解し適切に対応する問題で目標値より高く、成果が見られる。

(2) 課題がある項目

- ◇社会科について、必要な情報と関連付けながら地域的特色を考察する問題について正答率が低く、課題がある。
- ◇数学科については、与えられた文章題に対して適切に立式する問題について正答率が低かった。
- ◇理科では、モデル実験と実際の様子とを関連づけて考察することに課題があり、正答率が低かった。
- ◇英語科については、メールを読み、その要点を捉えて英文を完成させる問題について正答率が低く、無回答率も高かった。

質問紙調査結果の概要

(1) 良好な項目

- ◇「めあてや課題が示されている」「まとめや振り返りを行っている」の肯定的回答が約90%と高い。
- ◇「学校の授業以外で週に何日くらい勉強しているか」の項目について、ほぼ毎日という回答をした生徒は全国平均よりも10%近く高い。

(2) 課題がある項目

- ◇「教科の学習はどれくらい好きですか」の項目について、理科以外の教科について肯定的回答が60%以下になっている。
- ◇「他の人と同じ意見だった場合でも、自分なりの考えを发表している」の項目について全国平均よりも低くなっている。

具体的な取組

- ◇英語については、一文ずつ解読するボトムアップの読み方ではなく、文章全体から大切な部分を捉えさせる読み方を指導し、読んだことを基に話したり書いたりする活動を仕組んでいく。
- ◇生徒が自分の言葉で考えを説明できるよう時間を十分に確保し、考察したことや考えた結論を自分の言葉で表現できる指導を行う。
- ◇生徒のつまずきがどこにあるのかを把握し、つまずきに応じた授業展開を講じる。
- ◇生徒の学習状況を単元ごとに見取り、学習内容をしっかり身に付けさせ、「できた」「わかった」を感じさせ「授業が好きになる」児童を育てていく。